A子さんからの手紙

M中学校のみなさん、こんにちは。私はK中学校のA子です。

突然手紙を差し上げたのは、同和問題について一緒に考えていただきたいことがあるからです。

今年の一月末のことでした。私たちバレーボール部は、練習試合のため高知市へ向かっていました。

その途中、休憩のためにM中学校のある町の道の駅に立ち寄りました。ところが、そこのトイレのドアに思いもしないような落書きを見つけました。

「ドウワブラクノ　ヒトハ　キタナイ」
「ドウワブラクノ　オンナハ　ミナブスダ」　※留意事項参照

これを見た時、私の耳元に差別落書きをした人たちの笑い声が醜く聞こえてきました。それと同時に、涙をためて見ている、何の罪もない同和地区の人たちの顔が脳裏に浮かんできました。チームメイトと一緒に差別に対する怒りの言葉を言い合いました。

それから後も、私は、人権について考える機会があるたびに、この事が気になって仕方がありませんでした。

半年後、私たちバレーボール部は、高知市での四国大会へ参加した帰り道、再びあの道の駅に立ち寄りました。あの差別落書きのことが、頭に浮かんできました。すると、あの落書きは白いペンキできれいに塗り消されてありました。だれか優しい人たちの手で・・・。

私は、この体験を人権作文に書き、また先生や家族にも話を聞いてもらいました。そして、私の体験と差別に対する腹立たしい気持ちを、M中学校の皆さんにも知っていただきたいと思ったのです。

M中学校のあの美しい自然のある町に、こんなみにくい差別が降りかかっていいのでしょうか。同じ県内で同和教育を受けている中学生として、ぜひ皆さんの意見をお聞かせいただければ幸いです。

K中学校　　A子

M中学校のみなさんへ

「再び、A子さんからの手紙」

M中学校の皆さん、お久しぶりです。私の名前は　あすか　と言います。

皆さんが、今日、勉強された「A子さんからの手紙」は、私が中学生のころに、M中学校の皆さんに送らせていただきました。私は、今、東予地域のホテルで働いています。私がその手紙を送らせていただいたのは、もう、十二・三年も前のことになります。

先日、先生からお話を伺って、私の送った手紙が、今もなお同和問題を考える資料として使われていることを知り、たいへん驚いています。

大学を卒業し、社会人になると学生時代のように同和問題や人権問題について深く考える機会がめっきりと減ってしまい、今の私に十数年前の熱い想いがあるかといえば自信がないというのが正直なところです。

私が、この十数年の間で同和問題にかかわりのある話を耳にしたことは一度しかありません。それは、同和地区の出身であるということが原因で結婚に至らなかったという友達の話です。この話を聞いたときに私の頭をよぎったのは、あの時のトイレの落書きでした。その時には、今もなお、差別が根強く残っていることに強い怒りと悲しみを覚えました。

この十年間で世の中は大きく変わり、以前に比べて随分と「差別」や「偏見」は解消してきたと思います。でも、完全になくなったかといえば決してそうではありません。差別の問題は人間が生きている限り考え続けていかなければならない問題なのかもしれません。

これからいろいろなことを経験して、それを糧に成長していく皆さん、今、学ぶ機会がある間に十分、自分なりに考えて頂きたいと思います。後に続く人たちに、更にみなさんの子どもたちの時代にはもっともっと幸せな笑顔であふれていますように・・・、心からそう願っています。

M中学校のみなさんへ

あすか

【指導者用資料】

A子さんからの手紙

教材の見方

中学生のＡ子（あすか）は、たまたま立ち寄った道の駅のトイレのドアに書かれた悪質極まりない差別落書きを発見する。

半年後、あの落書きが書かれてあったトイレが気になり立ち寄るが、すでに、誰か優しい人たちの手で消されていた。

あすかはこの落書きについて、家族や先生とじっくりと話し合い、「人権作文」にまとめる。さらに、自分に何が出来るかを自問自答し、この体験、差別への腹立たしい気持ちを、落書きがあった町の中学生宛に、「一緒に考えてほしい」と思いを手紙に託して届けたのである。

差別を自分のこと、自分たちの地域の問題として考えるために、よい教材である。

指導のねらい

○　落書きという陰湿で卑劣な行為によって露にされた差別の現実を知り、差別を許さず、解決していこうとする意欲と実践力を育てる。

○　多くの人々も見ていたであろうにもかかわらず、何の対処もしなかった人々について考え、傍観者が差別を助長させていることを理解させる。

○　同じ中学生として、自分が落書きを発見した場合に、どのような対応がとれるかを考えさせる。

○　Ａ子に対する返信の手紙を書かせることによって、自分自身のこととして真剣に考える契機にさせる。

留意事項

○　実際に書かれていた落書きの言葉については、地域の実態や生徒の同和問題の知的理解の状況等を踏まえ、提示方法等、取扱には十分に熟慮すること。

○　部落差別は遠い昔のことという捉え方ではなく、現在でもいろいろな施設への落書きや、インターネットの掲示板などへの書き込み等陰湿な行為によって人を差別する現状があることなど、差別の現実に学ぶことの大切さを伝える。

○　Ａ子の思いを受け止めた保護者、仲間の考え方にも視点を当てながら、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決において、正しく理解することが、正しい判断力・行動力につながることを押さえる。

○　中学生の一通の手紙が、この町の人権・同和教育を見直すきっかけとなり、学校教育と社会教育を通じて、多くの人が人権・同和教育の重要性を再認識できたことにもふれる。